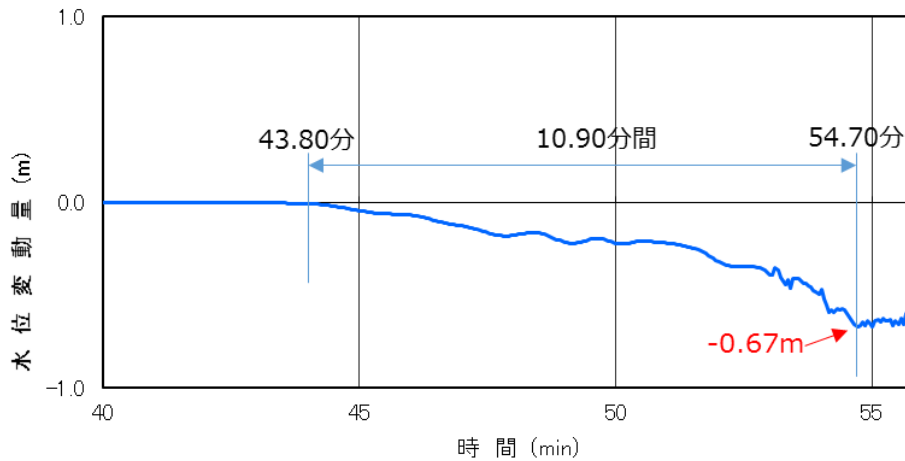


トリガーを設定するための入力津波作成に係る補足説明資料

仮設定②（エリアBの Es-K5 の破壊伝播速度 0.4m/s）のケースにおける1波目の水位低下量については、トリガーを設定するための入力津波を作成するにあたり、以下の扱いとした。（第三編-55～70 ページ参照）

【5/26 審査会合説明時】

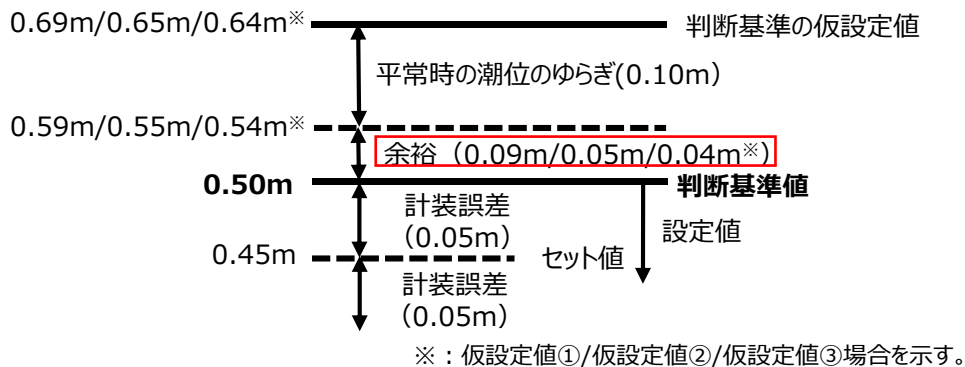
- 仮設定②はエリアBの Es-K5（Kinematic モデル）の破壊伝播速度 0.4m/s のケースにおける1波目の水位変動量 0.67m を採用している。
- 本ケースは、津波シミュレーション結果において、最高水位が T.P.+2.52m であり（潮位のばらつき及び高潮裕度を考慮）、施設影響の生じないケースであるが、安全側に判断基準（トリガー）設定の仮設定に採用しているものであり、その1波目の水位変動量は、約11分で、0.67mである。



仮設定② エリアBキネマ 破壊伝播速度 0.40m/s 1号炉海水ポンプ室

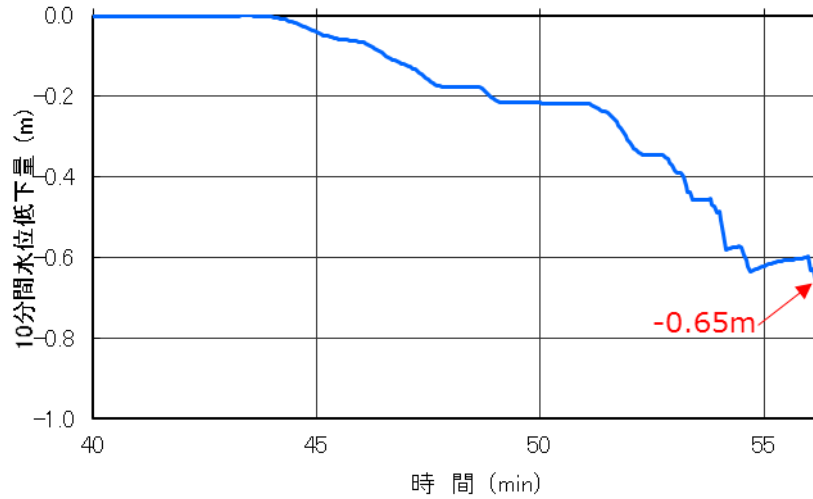
【トリガーを設定するための入力津波作成時】

- トリガーを設定するための入力津波作成においては、仮設定①、②から作成した入力津波の1波目の水位変動量が、「平常時の潮位のゆらぎ」を考慮した上で、設定したトリガーである10分以内0.5mの水位変動の工学的余裕内（下図の赤枠内）に収まることを確認する。



潮位計の判断基準値の概念図

- したがって、仮設定②は、1波目の水位が約11分かけて0.67m変動していることから、これが、トリガーである10分以内0.5mの水位変動内（上図の工学的余裕内）に収まっていることを確認するため、より安全側の確認となるよう、仮設定②の10分間での水位変動量0.65m（下図）に対し、修正モデルと、貝付着なしのパラメータスタディを行うこととする。
- なお、仮設定①のケースでは、1波目の水位変動量が0.69mであり、これに要する時間は約6分（47.70分から53.55分まで）となっている。また、仮設定③のケースは1波目と2波目の増幅比率から逆算で求めていることから、時刻歴波形はなく、10分間での水位変動量という概念はない。



仮設定② 10分間水位変動量（エリアBキネマ 破壊伝播速度 0.40m/s 1号炉海水ポンプ室）